

愛・誠・勇

福島市立福島第三小学校

令和 元 年度『学校だより』

第19号 R2, 1, 30

校 長 佐藤 秀美

文責 教務主任 齋藤 康則

2020スタート

いよいよ、新しい年「2020年」がスタートしました。

8日の始業式に校長先生から、「3学期は短い期間ですが、1年間のまとめと新しい学年に向けての準備を、めあてをもって行いましょう。」というお話がありました。

代表の児童からは、「自主学習を頑張っています。」「なわとび記録会に向けて、練習します。」「(A) 当たり前のことを、(B) バカにしないで、(C) ちゃんと、(D) できるようにします。」との発表があり、3学期に向けての意気込みが感じられました。



子どもは風の子

20日(月)の昼の時間に、「ふれあいタイム」が行われ、縦割り班で「なかよし家族」の活動をしました。

気温は7℃と決して暖かいとは言えない中、全家族が、班の計画で、鬼ごっこやリレー、ドッジボール、ジャングルジムなどで遊びました。

担当の先生方も一緒に走り回っている姿が見られましたので、三小は「先生も風の子」なのかもしれません。この調子で風邪を吹き飛ばして、元気に生活してほしいものです。



春に向けて

「愛の庭」の花時計・花壇にパンジーの苗が植えられ、観察園の畑、温室では、来年度、理科で観察する野菜の苗が植えられています。

暖かくなってから立派な花や実をつけるために、冬の寒さにじっと耐えています。日々、じっくり育っていく姿は、子ども達と同じですね。



ずいぶん厳しく叱られたけど、 今ではそれに感謝しています。

いけないことをいけないことと思わない子どもたちが
増えています。

「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という
人は、なかなか人から信頼されないものです。間違った
行いは本気で叱り、その場で正すことが本当の愛情です。

「自分の子だけ良ければいい」という考え方（自子主義）
はやめ、叱るときには何がいけないのか、理由をきちん
と伝えましょう。また、気分や感情に流されず一貫性をもっ
て叱ることも大切です。

そして、親自身もルールに反することはしないように
気をつけましょう。子どもに信頼され、尊敬される親で
あり続けるためにも。

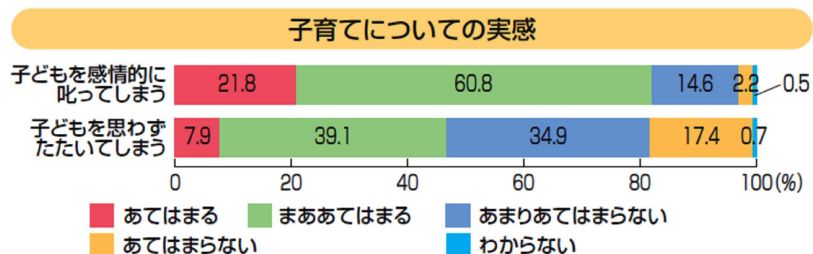
間違った行いはしっかり叱る

感情にまかせて叱ることと しつけとは違う。

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ち
から、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかな
くになってしまう場合もあります。子育てのイライラやス
トレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動
にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立
場にもなって考えること。「そう言われたら子どもはどう
感じるだろうか」「子どもはどう受けとめるだろうか」、
まずここから考えてみましょう。

子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的
な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性
もあります。



(注) 首都圏、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名
資料:「第3回子育て生活基本調査(幼児版)」(2008年) Benesse教育研究開発センター

「叱られる側」の子どもの立場も考えてみる